

- (㊦) 地すべり……………1か所
- (㊧) 国鉄の道床被害……………2か所
- (㊨) トンネルの被害……………2か所
- (㊩) 護岸壁の被害……………3か所

## 養老牛地区の地震調査について\*

根室測候所

550.346

1963年1月28日北海道東部に地震があり、その後、震源地に近い中標津町養老牛部落で余震が引続き、住民が不安を感じているので現地調査を依頼するという根室支庁長の要請で下記のとおり調査しましたので報告する。

調査日時 昭和38年2月20日

調査員 根室測候所 岩戸調査官  
根室支庁 伊藤総務課主事  
中標津町役場助役、産業課長  
計根別支所長  
計根別駐在巡查

### 調査概要

(1) 震源地付近は原野で冬季間は交通途絶の地域であるが、たまたま開発局でブルドーザーを通したあとであったため、車によってようやく養老牛部落に入ることができた。

(2) この部落が一番被害がひどいといわれた場所であったが、最近の建物(モルタル張り)をのぞいてはほとんどが開拓農家で、木造の建物自身が考朽しており、地震がなくとも傾いた状態の家が大部分である。

### (3) 被害の概要

イ. 大きな家屋の被害はなくモルタル塗りの建物(3軒)に壁のひび割れ、一部剝脱の他は木造農家の軒が傾いたりした程度で、倒壊等のことはない。

ロ. サイロの一部にひび割れを生じ、危険なものは既にとりこわしてあった。

ハ. 一般家庭では戸棚その他家具の転倒により台所用品の破損が多かった。

ニ. 唯一の雑貨養でピン詰類の商品が転倒破損したのが被害額の大部分を占めている。

ホ. 開拓簡易水道の配水管の一部破損があったが現地

を見ることはできなかった。

ヘ. 近くの温泉温度が低下したというわさがあったが、現地に入ることは不可能な上、どこからその話が出たかも結局証言するものがいなかった。

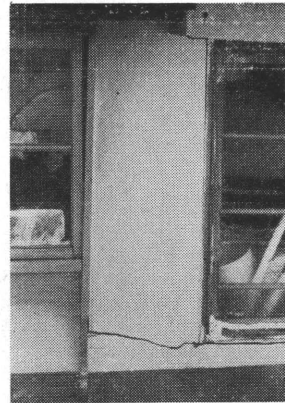
ト. 飲み水がにごったという事実はあったらしいが、何時頃から始まって何時もとにもどったかなどを正確に記憶しているものはなかった。

チ. 地割れ、雪割れについて

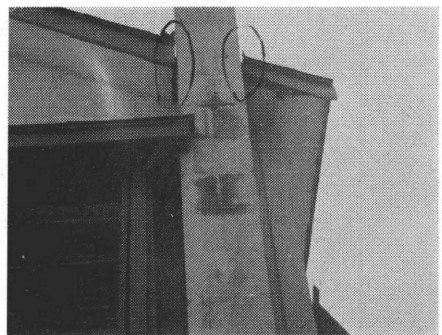
雪割れを生じたことは事実らしいが、調査当日にはその後の吹雪で、当時の状態を示すところはほとんど残っていないかった。1か所だけ西向き斜面の肩口のところにほぼ南北雪割れとそれに伴う地割れの一部を確認することができた。雪がとけて地割れに流れ込み、内面に凍結しているので正確な大きさはわからないが、開きは約5cm、深さ約30cmくらいで、判明した長さだけで約6mはあった。

### (4) 付近の住民の体験談から

イ. たんす、本棚、テレビ、ミシン等が倒れ、ストーブがおどり出して煙筒がはずれ、水を一ぱい張った斗が

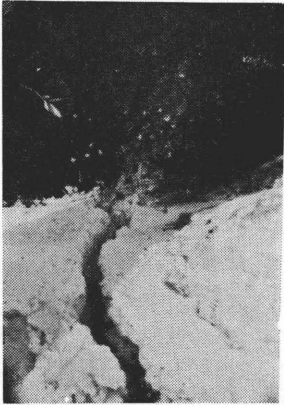


雑貨店のモルタル壁に生じたひび割れ。



集合煙筒と屋根の継目がはずれてしまった。

\* Nemuro Weather Station : A Field Investigation of Earthquakes in Nakashibetsu, Hokkaido, in January and February, 1963 (Received April 20, 1963)



ただ1か所発見できた雪割れと地割れの一部。



同左、棒で雪割れの部分をさぐって見せたものの、初めは雪の下にかくれて見えなかつた。

第 1 表

月 日	
1 28	V : 1, IV : 1, III : 7, II : 6, 地鳴り 8 (22 <sup>h</sup> まで)
29	III : 5, I ~ II : 3, 地鳴り 6 (1月30日から2月6日まで回数はとってないが少なかった。2月3日ごろから多くなる。)
2 7	I : 1
8	I : 1
9	II : 6
10	I : 1
11	I : 2
12	I : 2 (12 <sup>h</sup> 50 <sup>m</sup> , 18 <sup>h</sup> 15 <sup>m</sup> ), 地鳴り 1 (08 <sup>h</sup> 16 <sup>m</sup> )
13	III : 1 (20 <sup>h</sup> 55 <sup>m</sup> ), 地鳴り 2 (13 <sup>h</sup> 08 <sup>m</sup> , 15 <sup>h</sup> 43 <sup>m</sup> )
14	I : 2 (02 <sup>h</sup> 05 <sup>m</sup> ), 地鳴り 2 (07 <sup>h</sup> 03 <sup>m</sup> , 18 <sup>h</sup> 03 <sup>m</sup> )
15	I : 1 (15 <sup>h</sup> 10 <sup>m</sup> )
16	I : 1 (16 <sup>h</sup> 01 <sup>m</sup> ), 地鳴り 1 (09 <sup>h</sup> 31 <sup>m</sup> )
17	地鳴り 1 (12 <sup>h</sup> 43 <sup>m</sup> ) (18日から21日まで なし)
22	II : 1 (08 <sup>h</sup> 46 <sup>m</sup> ), I : 2 (08 <sup>h</sup> 20 <sup>m</sup> , 08 <sup>h</sup> 25 <sup>m</sup> ), 地鳴り 2 (07 <sup>h</sup> 23 <sup>m</sup> , 15 <sup>h</sup> 05 <sup>m</sup> )
23	地鳴り 1 (19 <sup>h</sup> 45 <sup>m</sup> ) (24日から26日まで なし)
27	I : 1 (18 <sup>h</sup> 10 <sup>m</sup> )
28	I : 1 (13 <sup>h</sup> 30 <sup>m</sup> ), 地鳴り 1 (15 <sup>h</sup> 30 <sup>m</sup> ) (3月1日から2日まで なし)
3 3	I : 1 (12 <sup>h</sup> 24 <sup>m</sup> )
4	なし
5	II : 1 (20 <sup>h</sup> 22 <sup>m</sup> ), I : 1 (20 <sup>h</sup> 25 <sup>m</sup> )
6	地鳴り 2 (14 <sup>h</sup> 35 <sup>m</sup> , 19 <sup>h</sup> 31 <sup>m</sup> ) (7日から10日まで なし)
11	III : 1 (18 <sup>h</sup> 46 <sup>m</sup> )
12	なし
13	I : 1 (18 <sup>h</sup> 19 <sup>m</sup> ), 地鳴り 1 (14 <sup>h</sup> 35 <sup>m</sup> ) (14日から15日まで なし)
16	I : 1 (14 <sup>h</sup> 15 <sup>m</sup> ), II : 1 (17 <sup>h</sup> 51 <sup>m</sup> ), 地鳴り 2 (時刻不明) (17日から24日まで なし)
25	III : 1 (20 <sup>h</sup> 30 <sup>m</sup> )
26	I : 1 (10 <sup>h</sup> 40 <sup>m</sup> )
27	II : 1 (05 <sup>h</sup> 50 <sup>m</sup> )
28	なし
29	I : 1 (16 <sup>h</sup> 56 <sup>m</sup> ) その後4月4日まで なし

註・・ローマ数字は震度, アラビア数字は回数

めがグラグラ動いて台所から土間どころげ落ち割れてしまった。(南北に向いているものだけが倒れている)

ロ. 唯一の雑貨店では棚の商品がすっかりくずれ落ち、一日かかっても片付けきれなかった。

ハ. 授業中の学校(地震と同時に避難したので児童生徒は無事)では窓ガラスが最初の上下動でうまい具合にそっくり外れて、そのまま垂直に窓下の雪面にささったので多くの窓が外れ落ちた割合にはガラスの破損が少なかった。

ニ. 「1月28日の本震以後、相当数の地鳴りを伴った

地震が繰り返されたが、その後は程度も弱まり、回数も次第に減って2月13日に大部分の人が記憶していた余震を最後に調査当日までは何も起っていない」というのが部落民の話の結果であるが、当日出席していた人々の中には正確な記録をとっているものは一人もいなかった。

(5) 当時記録をとっていた同部落の遠藤正氏から後刻その記録を送られて来たので、それを参考までに列記すれば第1表のようである。

(6) 中標津町役場の調査による被害は第2表のとおりである。

第 2 表

		被害額
開拓水道配水管の破損	1 か 所	2 0 千円
商店の商品、店舗破損など	1 か ...	5 0 0 千円
養老牛中学校屋体方杖はずれ 窓ガラス、壁テックスはずれ等		8 千円
農家住宅畜舎等の傾斜破損など		1 7 0 0 千円
サイロき裂、一部使用不能	4 基	8 0 0 千円
その他家財道具、食器類の破損		3 0 千円
計		3 0 5 8 千円